

便利になる社会で

私の家は、二世帯住宅であり、一階には八十四歳の祖父と八十一歳の祖母が住んでいる。私が小さいころから一緒に食事をしたり、買い物に行ったりしていた。私が中学に入学したころから、歩くスピードがゆっくりになり、息切れをしている姿を見るようになった。先日、一緒に買い物に行った時、祖父がレジでサイフからお金を出すのが遅くなった。私達の後ろに並んでいた若い男の人が、舌打ちをして、イライラしている様子だった。私は、若い男の人に「すみません。」と言い、祖父に早くお金を出すように促した。私達の会計が終わると、私はホッとした。しかし、祖父と車に乗り家に帰っている途中、時間が経つにつれて、祖父に申し訳ない気持ちになった。サイフから早くお金を出すように促したからだ。祖父も早くお金を出したかったにちがいない。高齢でやりたくてもできないことがあるのだ。普段は分かっていることだが、自分の心に余裕がないと祖父のような高齢者に優しく接することができないことが分かった。

最近では、機械化されたセルフレジが普及したり、現金で支払いをせずにクレジットカードなどで会計したりすることも増えて、高齢者にも使いやすくなってきていると思う。コンビニによっては、商品を会計せずにそのまま店を出ることで会計が済んでいるところさえもある。テクノロジーが人を助け、高齢者にとって生活しやすいものになっている。その他にも電動車椅子や人感センサーによる安否確認システムなど、今までの高齢者ができなかったことや心配なことがなくなってきている気がする。これからは、テクノロジーによって、高齢者とそうでない人がつながり、高齢者が社会において、差別されることなく生活しやすくなると思う。

私にできることを考えると、祖父のような高齢者に便利な物を紹介したり、使い方を教えたりすることだと思う。私の祖父母もスマートフォンを持っていて、その中で便利なアプリを教えることで、祖父母の笑顔が見れることがある。その笑顔を見ることで、私も嬉しく感じることもある。そんな経験を重ねていくことで分かったことがある。人が幸せになるための人権は、人と人とのよりよい関係の上で成り立っていることが分かった。テクノロジーや技術といった、人の役に立つものを活用しながら、人と人とが認め合うことで、人権意識が高められると思う。私が祖父母にスマートフォンのアプリを教えるようになってから、祖父母に会う回数が増え、会話も多くなり、笑顔になることが多くなった。その中で、祖父母にから昔の戦争の話を聞いて、知らなかったことが分かったり、私が教えたリモート通話について、祖父母が大きくなすいたりすることがこれからも

続くと思う。